

高校公民プリント（過去問類似）

青年期と現代社会 No.6

名前

得点

/9

問1 オランダの歴史学者が提唱した、人間を「遊ぶ人」として捉える人間観であり、法や宗教、芸術、学問などのあらゆる文化的な営みは、本来的に自由で無利害な精神から発生し発展してきたものであるとする思想を何というか。（2017年 全国公立入試 類似）

1. ホモ・サピエンス 2. ホモ・ロクエンス 3. ホモ・ルーデンス 4. ホモ・ファールベル

問2 人工呼吸器などの高度な延命治療の実現に伴い、従来の「心臓死」とは異なる段階での死の定義をめぐる議論が活発化した。大脳、小脳、脳幹を含む全脳の機能が不可逆的に喪失し、回復不可能な状態に陥ったことを指し、現代の生命倫理において個体死として認めるかどうかが議論されている状態を何というか。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 心臓死 2. 個体死 3. 脳死 4. 細胞死

問3 日本、アメリカ、英国、ドイツ、スウェーデンの若者を対象とした意識調査において、社会での成功要因として「学歴」を最も重要とする回答の割合が、他の要因（個人の努力や才能など）に比べて相対的に低いという結果が示されている。このような、若者の意識の現状を国際比較し、青少年の健全育成に関する施策の基礎資料を得ることを目的として、「我が国と諸外国の若者の意識調査」を実施している日本の行政機関はどこか。（2016年 全国公立入試 類似）

1. 総務省 2. 外務省 3. 財務省 4. 内閣府

問4 受精卵以外の細胞から遺伝的に同一の個体を作製する技術の確立や、それを利用した拒絶反応のない移植用臓器の開発など、生命科学の急速な進歩に伴って生じる倫理的課題を総合的に探究し、医療や研究のあり方を問い直す学問領域を何というか。

（2012年 全国公立入試 類似）

1. ディープエコロジー 2. パターナリズム 3. インフォームドコンセント 4. バイオエシックス

問5 高校生のAさんは、部活動での人間関係に悩み、強いストレスを感じていた。そこでAさんは、関係がこじれている部員と直接話し合いの場を設け、お互いの誤解を解くことで状況を改善しようと試みた。このように、ストレスの原因となっている問題や状況そのものに直接働きかけ、それを変化させたり解決したりすることでストレスを軽減しようとする対処行動を何というか。（2021年 全国公立入試 類似）

1. 情動焦点型対処 2. 評価焦点型対処 3. 回避逃避型対処 4. 問題焦点型対処

問6 青年期は、子どもから大人へと移行する過渡期であり、心理的に不安定な時期とされる。ドイツ出身の心理学者レヴィンは、このような時期にある青年が、子どもの集団にも大人の集団にも完全に所属できず、両者の境界に位置している状態を指して何と呼んだか。（2015年 全国公立入試 類似）

1. マージナル・マン 2. ライフサイクル 3. アイデンティティ 4. モラトリアム

問7 一つの国家や社会の中で、異なる背景を持つ人々が自らの文化を維持しながら、互いの違いを認め合い、対等な関係で共に生きていくことを目指す立場を何というか。これは、少数派の文化を支配的な主流文化に吸収・統合させようとする考え方の批判や反省から生まれたものである。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 排外主義 2. 多文化主義 3. 文化相対主義 4. 同化主義

問8 現代社会における様々な統計データの分析において、データの特性に応じた表現方法を選択することは重要である。例えば、過去数十年間における日本の完全失業率の推移など、時間経過に伴う数値の連続的な変化や動向を視覚的に表現するのに最も適した図表の名称を答えよ。（2020年 全国公立入試 類似）

1. 棒グラフ 2. 折れ線グラフ 3. 円グラフ 4. 帯グラフ

問9 1997年に制定され、2009年の改正（2010年全面施行）によって、本人の提供意思が不明な場合であっても、家族の書面による承諾があれば、年齢にかかわらず判定および提供が可能となった、日本の生命倫理に関する代表的な法律は何か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 母体保護法 2. 臓器移植法 3. 優生保護法 4. 臨床研究法

答え合わせ・解説 No.6

問1	答え 3 ホモ・ルーデンス	オランダの歴史学者ホイジンガは、人間を「遊ぶ人」と定義した。彼は、人類が築き上げてきた文化や社会制度の根源には、利害関係にとらわれない自由で創造的な「遊び」の精神が存在すると主張し、従来の知性や労働を重視する人間観とは異なる視点を提示した。
問2	答え 3 脳死	医療技術の進歩により、心臓が自律的に動いていても、脳全体の機能が完全に失われて回復しない状態が維持できるようになり、これを「脳死」と呼ぶ。従来の呼吸停止、心停止、瞳孔散大の「死の三徴候」による死の定義に対し、脳死を人間の個体としての死（個体死）とみなすかについては、倫理的、宗教的、法的な観点から多様な議論が存在する。日本では1997年の臓器移植法制定により、臓器移植を行う場合に限り、脳死が法的な死として認められるようになった。
問3	答え 4 内閣府	「我が国と諸外国の若者の意識調査」は、日本の若者の意識を国際比較するために実施されている調査であり、国の青少年政策を企画・立案する内閣府が担当している。調査結果では、社会での成功要因として「学歴」を挙げる若者の割合は各国とも低く、個人の努力や才能を重視する傾向が強いことが明らかになっている。
問4	答え 4 バイオエシックス	生命科学や医療技術の急速な発展に伴い、従来の道徳や法律だけでは解決できない新たな倫理的問題が生じるようになった。これに対して、生命の尊厳や自己決定権、生活の質（QOL）などを考慮しながら、人間としてのあり方や医療・研究の限界を議論する学問領域がバイオエシックス（生命倫理）である。体細胞クローン技術の応用や臓器移植なども、この領域における重要な議論の対象となっている。
問5	答え 4 問題焦点型対処	ストレスの原因（ストレッサー）そのものに直接働きかけて、状況を変化させたり解決を図ったりする対処行動を問題焦点型対処と呼ぶ。問題文の事例では、人間関係の悩みというストレスの原因に対し、話し合いという直接的な行動によって解決を図ろうとしているため、これに該当する。これに対し、状況そのものを変えるのではなく、自身の感情をコントロールしたり、気晴らしをしたりして苦痛を和らげようとする行動は情動焦点型対処と呼ばれる。
問6	答え 1 マージナル・マン	ドイツ出身の心理学者レヴィンは、青年期を子どもから大人への過渡期として捉えた。この時期の青年は、子どもの世界から離脱しつつも、まだ大人の世界に十分に受け入れられておらず、どちらの集団にも完全に帰属できない不安定な心理状態にある。このような境界的な存在を「マージナル・マン（境界人・周辺人）」と名付けた。
問7	答え 2 多文化主義	一つの社会において異なる文化背景を持つ人々が、自らの文化を維持しながら互いに認め合い共存することを目指す思想である。少数派の文化を支配的な文化に吸収させようとする同化主義への反省から生まれた。
問8	答え 2 折れ線グラフ	時間経過に伴う数値の連続的な変化（時系列的な変化）を示す場合には、点の連続性によって推移や動向を捉えやすくする図表が適している。例えば、失業率や気温の推移などにはこの図表が用いられる。一方、内訳の割合を示すには帯グラフや円グラフ、複数項目のバランスを示すには別の図表が適している。
問9	答え 2 臓器移植法	2009年の改正により、本人が提供を拒否する意思を示していない限り、家族の書面による承諾があれば、15歳未満の小児も含めて判定および提供が可能となった。これにより、それまで本人の書面による意思表示が必要であった要件が緩和され、移植医療の機会が広がる一方で、家族への精神的負担や意思決定のあり方についての議論も続いている。